

4、第3学年の取り組み

(1) 算数チャレンジの取り組み

時 期	内 容
1 学期始め頃 (算数のオリエンテーションの時)	・算数チャレンジの目的と方法を伝える。 ・宿題として次の日に学習する問題に取り組みさせる。
1 学期の中頃	・授業の始めに、算数チャレンジの理解度チェックをする。
1 学期の終わり頃	・算数チャレンジを教科書やノートに書き込んでいる児童の紹介をする。
2 学期の初め頃	・算数チャレンジの目的と方法を再確認する。
2 学期の中頃	・国語の音読の宿題と同様、算数の教科書の音読も宿題に入れる。(保護者にチェックしてもらう。)

(2) 算数チャレンジに取り組んだ成果 (◎) と今後の課題 (●)

◎2学期の中頃まで、問題を最後まで読まなかったり、途中で読み飛ばしたりしたことが原因で答えを間違っていたが、2学期の中頃から算数チャレンジに教科書の音読を入れたことで、何を問われているか、問題の意図を理解できるようになった。また、文章が長くて難しそうに見える問題も、算数チャレンジで教科書を音読することで落ち着いて問題に取り組むことができるようになった。

◎算数チャレンジで教科書を音読することで、算数用語を辞書引きするようになった。(例えば、「道のり」と「距離」)

●授業の始めに、算数チャレンジの理解度を3段階で表出するようにした。十分理解できたと思ったら「A」、おむね理解できたと思ったら「B」、十分に理解できなかったと思ったら「C」と判断の基準を示し、児童に挙手で表出させた。算数チャレンジのおおまかな理解度は把握できるようになった。算数チャレンジの理解度を基に児童同士の交流や個別指導に役立たせることはできないかと考え、「A」を青、「B」を黄、「C」を赤というようにカードを机上に提示させるようにした。その後、交流場面ではカードを基に情報を交換する姿が見られるようになり、赤のカードを提示している児童には、すぐに個別指導ができるようになった。算数チャレンジの理解度を教師が把握する必要がある。

●自力解決する場면을充実させる必要がある。授業場面で、児童が考えることを楽しむような発問や単元構成を工夫していくことが大切だと思う。

(3) 目指す児童の姿として参考となる資料

【学び合いの様子】



資料1

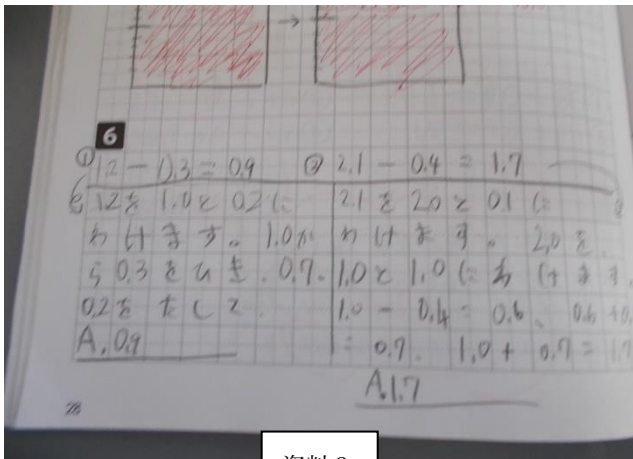


資料2

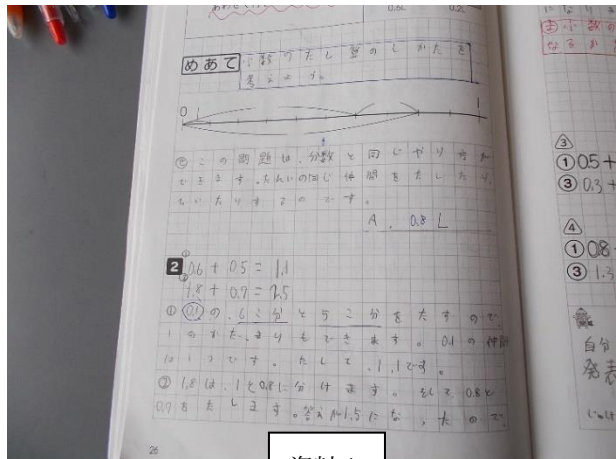
青色のカードの児童が赤色のカードを提示している児童にヒントや解き方のコツを教えるようになった。

(資料1・2)

【自分の考えを書いた児童のノート】



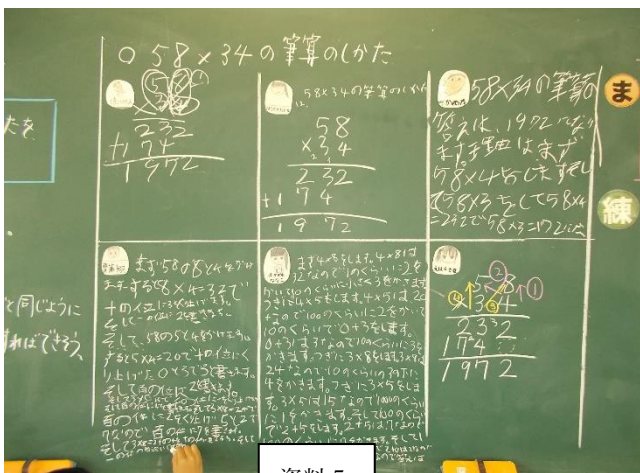
資料3



資料4

自分の考えの書き方やその楽しさを知った児童は、意欲的に表現するようになった。(資料3)
 計算の仕方を①、②と書いてから書き始めるなど、考えを整理してノートに書くことができるようになった。(資料4)

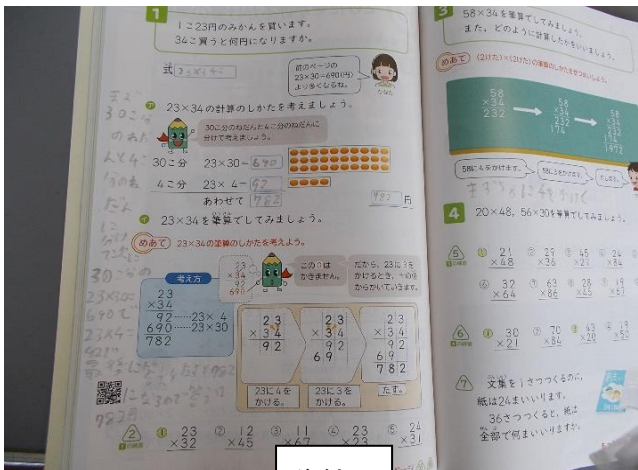
【児童の考えた説明の板書】



資料5

算数チャレンジに取り組んだことで、学習課題を正確に捉え、自分の考えを黒板に書くことができたようになった。この板書とともに、全体交流を行った。それぞれの児童が自分の考えを説明したり、考えの違いや共通点に気づいたりすることができるようになった。(資料5)

【算数チャレンジの教科書への書き込み】



資料6

算数チャレンジでは、学習内容を読み進めていく中で、十分に理解できなかったことや疑問に思ったこと、もっと深く考えたいことを教科書に書き込んでいった。翌日の授業では、児童が分からなかったことや疑問に思ったことが学習課題につながった。教科書に書き込んだことが授業を通して解決していくことを楽しむ児童もいた。(資料6)